

DX時代の観光立県復活に向けたホテルエンジニア人材育成への取り組み

2023年6月に開業を予定している「TAP Hospitality Lab®(T.H.L.沖縄)」(以下T.H.L.)では各メーカー企業に加えて、独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校(以下沖縄高専)との産学連携による実証実験にも取り組んでいきます。今回は沖縄高専の佐藤貴哉校長をお招きし、当協会(一般社団法人宿泊施設関連協会/JARC)会長で株式会社トップの代表取締役会長兼社長の林悦男とこれからの観光産業を見据えた人材育成についてお話しいただきました。



観光系コースの創設で期待される 利活用技術者の増大

林 まもなくT.H.Lが開業しますが、沖縄高専にも実証実験に協力していただけることを大変嬉しく思っています。まず、高専とはどういう場所かお聞かせいただけますか？

佐藤 私立や公立高専もあります。国立高専は全国に51校あります。沖縄高専は2004年に創立された最も新しい国立高専で、今年が創立20周年です。もともとは高度経済成長期に技術者が必要だったことから、中学校を卒業した才能のある若者を集めて5年間で実践的な技術者に育て、産業界に送り出すのが高専の目的でした。長年、日本産業の基盤を支えてきましたが、近年は実践的な技術者と言うよりも、クリエイティ

ブな技術者を養成することが目的に変わってきています。

林 その中で今年から「観光・地域共生デザインコース」ができました。これは観光の道に進みたいという中学生が多くいるということですか？

佐藤 今のところ残念ながらそうではなく、観光というよりはDXが狙いです。観光が沖縄のリーディング産業であることは間違いありませんが、ハワイなど海外の観光地と比べると強さに欠けています。それに対してDXの力でイノベーションを起こせるような人材を育成していきたいという国の方針もあって、設立に至りました。

林 周囲の反応はどうでしたか？

佐藤 正直なところ、「今の時代に観

光系のコースを作るというのは、なかなか勇気がありますね」というお声をいただいたこともあります。理由としては、観光産業にはいわゆる3Kのイメージがあつて、就職を希望する人が少ないということでした。これは大変なことだと思いますが、一方でDXを組み合わせれば何とかなるのではないかと。そういう思いも持っていました。林会長からホスピタリティサイバース工学のお話を伺ったのは、ちょうどその頃です。

林 ホスピタリティサイバース工学というのは今から、6年前に私が言い出したのですが、当時はそういった言葉自体ありませんでした。でも、これからはホスピタリティサイバース工学の考えに基づいて宿泊業を改善していかなければいけないという思いはずっと持っていました。

佐藤 確かにホスピタリティとして考えると、ホテルだけではなく、幼稚園や病院、介護なども含まれるので市場が広いです。また観光もホテルやリゾート地など個々だけがうま

くいつても、リピーターは来てくれません。やっぱり沖縄全体の産業が強くなる必要があります。中心は観光でも農業や医療など色々なところにDXを入れていけば良い変化が生まれるし、沖縄高専のリソースもうまく活用できると思います。

林 私も理工系の人間が各ホテルに1人ずつ必要だとは思いませんが、少なくともホテルチェーンの本部などにはそういう方が必要です。そうでなければ、合理化や省力化のために何をするかというアイデアが利用者(宿泊施設)側から生まれてきません。では、人材をどこで育てるかといえば、やはり教育機関です。私は常々どこかの大学や専門学校に観光向けの工学系コースを作ってほしいと思っていました。今回沖縄高専に「観光・地域共生デザインコース」ができましたが、これは非常にウエルカムなお話なのです。

佐藤 林会長はホテル業界や観光業界に理工系の人間が増えていくことが重要だというお考えですね。

林 非常に重要だと思っています。もつと言えば技術者というよりも、利活用技術者です。何かを作るのではなく、そこにある色々なテクノロジーを利用していく知識を持つ人たちがですね。日本特有の何かを作る技術者は、メーカーにたくさんいます。ところが、利活用技術者というのはなかなかいないのが現状です。だからこそ、「観光・地域共生デザインコース」のような課程がもつと増えてほしいと考えてしまうわけです。

開発の最前線は最高の学び場

佐藤 今のお話でいうと、高専も大学と同じ高等教育機関ですので、大学と同様に学生と教員が、それぞれテーマ設定を行い研究活動をしています。しかし、高専の研究は大学のそれとは少し異なっています。高専では研究の社会実装という言葉がよく使われますが、「学生のアイデアと教員の研究スキルを合わせて、社会に役立つモノやコトを開発すること」を研究のミッションと捉えています。

その研究活動の中で、学生が技術者として成長していくことがとても重要です。社会実装を目標とした研究開発の中では、既存の技術を組み合わせ、新しい価値を創造する手法は極めて重要で有用です。

林 それはまさに工学ですね。そのようなマインドを学生たちに植え付けるために、何かされていることはありますか？

佐藤 高専教育では、「コンテスト」を重要な技術者教育方法の一つと捉えています。高専生の参加するアイデア・技術コンテストは枚挙に暇がないほどですが、全てのコンテストで、学生が主体的にテーマ設定を行い、目標設定をして、仲間を集めて、限られた予算と期間の中で自らのアイデアと技術を結果して、モノやコトを創出しています。それは技術者が実際の社会の中で実践しているプロセスを経験することに他なりません。また、「自分たちが課題を解決して、誰かを幸せにするんだ」という思いを持たせるよ

うなアドバイザーを教員から、学生たちに伝えていきます。

林 会社で言うところの改善とはまさにそれですから、高専の学生はすでに経験しているのですね。

佐藤 特に沖縄高専はコンテンツに強いので、そういうマイノリティを持つ学生が非常に多いです。私は昨年より沖縄高専の校長職に就きましたが、彼らであればホスピタリティーという分野にも十分対応できると1年間見てきて感じました。

林 先日、沖縄高専を見学させていただきましたが、本当に色んなことができると思いましたし、逆に我々にもヒントをもらうことができました。

佐藤 実は昨年が高専創立60周年ということで、文部科学省の施策で各校に特別予算が付きました。その資金で各高専への「起業家工房」の設置が始まっています。要は学内に起業に必

と、ということで日立製作所やパナソニック、三菱電機やオムロンといった本社が関与してきてくれています。これは非常に大きなことだと思います。ロボット技術者や、ビルディングオートメーションやファシリティーオートメーションの技術者が色んな技術を持ち込んで実験しますから、最前線のシステムを目の前で見ることができず。ぜひこれからの産業界と沖縄高専の学生たちの交流の場にもしていきたいと思えます。

**柔軟な発想から生まれる
気付きやアイデアへの期待**

林 元々はメーカーの持つ技術だけで構成した1商品を提供するというのが企業商品でしたが、メーカーの技術で一つのサービスを商品化するということがなかなかできない時代になってきました。その中で、この技術とこの技術を集めればこういうサービスが実現できると考えられるエンジニアがホスピタリティーサービス工学では必要です。こうした企画から最後まで作



一般社団法人 宿泊施設関連協会 (IARC) 代表理事 会長 林 悦男

と一体となって、その解決のために資する開発をしていってもらえたらと思っています。

林 起業家工房のお話ですが、THLと親和性が高いように感じますね。というのも、THLは6月末から実証実験をスタートしますが、色々な実験が、ああいうのはどうだろう、こんなのはどうだろうという発想を色々な方が持ち寄って、そこから様々なマがどんどん増えて行くような運営をイメージしています。

佐藤 林会長にぜひ伺いたいと思っていたのですが、THLでは実際にどういったことを行うのでしょうか？

林 例えば異なるメーカーのロボットを同じ場所でも同時に動かすという実験を予定しています。私たちはフリートマネージメントと言っていますが、こうした実験も今までありませんでした。それからハンディキャップを

り上げることができる人材を沖縄高専に育てていただきたいと考えているのですがいかがですか？

佐藤 本当に若い学生たちというのは次々に素晴らしいことを思い付いて、それをうまく最後の形にまで持っていくんですね。そういう学生がうまく伸びていってくれば、素晴らしい物が作れると思えます。それに高専の卒業生で起業する人は結構多いです。日本政府もベンチャー・スタートアップ企業のバックアップを随分としてくれていますから、観光の分野でも自分の技術とアイデアで起業するという技術者が今後

林 実は我々もTHLの中に、沖縄観光DX推進機構という組織を立ち上げようと考えています。そこには色々なテクノロジーを持つ会社が集まっています、沖縄観光をどうテクノロジー化していくかを検討していきます。

佐藤 具体的なビジョンなどもずすにお持ちですか？



独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校 校長 佐藤貴哉

林 技術的には可能ですが実現するかはどうかはまだ未知数という前提でお話しますと、一つは手ぶら観光でもいのでしょうか。羽田空港で荷物を預けたら那覇空港でピックアップせずにホテルまで配送してくれるようなサービスです。もう一つは高齢者やハンディキャップをお持ちの旅行者の場合、飛行機を降りてからホテルの部屋に入るまでの間に介護者が何人か必要です。この二連の流れをシステム化することで、全部シームレスにできないかというものです。

お持ちの方もロボットの補助があれば健康者と同じような働き方ができるのではないかと、ところを出発点にその方法を模索したり、フードテックでテクノロジーを使ったサービスや厨房の合理化といったことも実験の範囲に入っています。

佐藤 するとSDGs対象もかなり多いのではないですか？

林 17項目のうち13項目が対象になっています。ですから、THLは色々な実証実験を持ち込んで、実社会で使えるかどうかを確かめる場でもあるのです。参加していただく大手企業などは、有難いことに社会インフラとして観光を捉えてくれています。

佐藤 観光産業というよりも、社会インフラとしての観光という考え方はですね。

林 その通りです。様々なテクノロジーを社会インフラに導入していくこと

林 我々の委員会の中で技術的には可能だという意見が出ています。例えば車椅子ですが空港内は3.5mで、レンタカーで空港を出た瞬間から今度はGPSでコントロールします。このレンタカーが自動運転だったらもういいわけです。自動運転でホテルに行き、駐車場からロビーまではGPSで、ホテルのロビーに入ったら3.5mに切り替わります。顔認証でチェックインしたら部屋が自動的にアサインされて、そのまま部屋に入ることができ。こんなシステムだったら作れるぞと今話しているところです。

佐藤 まさにノンストップですね。介護者が入らなくなるだけでも、旅行の自由度がかなり高まる気がします。

林 こんなことも観光DXの中で、実現していきたいなと思っています。考えていることは他にもたくさんあります。それだけ社会や生活の中には、

不便なことや改善しなければいけないことがたくさんあるとも言えます。

「たらかうする」と考えることがすごくためになりますから。

佐藤 ロボットが完璧ではないことを体験させるのですね。

技術は全て揃っています。やはりそこはうまく活用して沖縄で活躍できる人材を育成していきたいですね。

佐藤 そういう環境の中に学生たちの柔軟な発想が加わると、確かに私たちでは思い付かない気付きや色んなアイデアが生まれそうですね。

林 ホスピタリティサービス工学の観点からブレインストーミングをして、企業は気が付いた課題を解決するという事業をTHLで沖縄高専と一緒にやりたいと思っています。これもただ課題を見出すのではなくマネタイズと言いますが、解決することでお金になるのかというところまで持っていきたいです。やはりお金になるところまでちゃんと提案できないと、アイデアや社会貢献というだけでは企業も採用してくれませんから。

林 そうです。私はこういう対応をしたということをまず体験してもらって、苦手とするところを対応させる技術をロボットに埋め込むのか、それともコストがかかるからそこは人間が対応した方がいいのかを考える機会になります。人間とロボット間における仕事の分けと言いつい換えられるかもしれませんが、そういうことも体験できるのではないかと思います。

林 今、沖縄で活躍できる人材というお話が出ましたが、卒業生の就職先は沖縄が多いのですか？

林 そうなのです。我々が沖縄高専と一緒に取り組ませていた当初に、何に期待しているかというところでした。社会や生活における気付きです。要は自分で考えるところよりも、社会の中で普通に起こっていることに対して「これはちょっとおかしい」と感じられるかどうかです。

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービスをロボットがうまくやれなかった場合に、人間がロボットに変わって対応する場面が出てくると思っています。

佐藤 確かにおっしゃる通りですね。今お話しいただいたことも含めて、沖縄高専の学生がTHLで何をすべきなのかを検討させていただきたいと思っています。我々としては最初にお話ししたように、観光ホスピタリティがメインですが、農業や医療なども含めて沖縄のあらゆる分野のDX化を推し進めていく時には、沖縄高専に相談してみようとなるのがベストだと思います。沖縄高専は学科構成もうまくできていて、沖縄に必要な

佐藤 実はそこが課題と認識していて、沖縄高専の学生の90%は沖縄県民ですが、就職先となると逆に就職する学生の90%が県外になっています。

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

学生が身に付けた技術で沖縄で活用できる環境づくり

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 それはもったいないですね。

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 そうなのです。沖縄で人材を一生懸命育てても県外に流出してしま

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

佐藤 それは学校の中にはわからないことですね。私もとにかく外に出なさいという話を学生たちにはよくしています。やっぱり企業にはどんな課題があつて、技術者はそれをどうやって解決しようとしているのかを知ることは大切だと思います。技術者と一緒に課題と相対して、「僕だつ

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス

林 THLでは学生にお客様と接する場面も経験してもらおうと考えています。例えばレストランでお客様へのサービス



をする学生も増えてくると思います。

ニアリングをしているのと同義です。

林 その点で言えば、我々も壮大なことを考えていて、沖縄に観光DXのモデルを一つ作り、それを県外に輸出していこうと思っています。沖縄で作ったパターンを県外に持っていくということは、沖縄に居ながらにして県外のエンジ

林 面的DXと言うか、要するに色々なエリアのレベニューを考えましようということですから、エリアをどうす

るかという職業ができてくるかと思っています。ひとつの旅館やホテルで何かしようとしたら資金が出てこないということもあると思いますが、それがエリアになって皆で少しずつ出し合えばある程度の資金になります。そんなことも考えています。

林 なぜTHLを沖縄に作ったのかをよく聞かれますが、その理由に東南アジアの人たちも見学に来やすいというところはもちろんあります。今お話に出たタイも世界的な観光地ですよね。やはり最終的には日本の観光を輸出産業にしたいというのが、我々JARCの設立以来の願いです。そういう意味でも、海外が近い沖縄にTHLができる意味は大きいと思います。今後も沖縄高専には大いに協力していただいて、沖縄と日本の観光を盛り上げていきたいと思っています。



独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
〒905-2192 沖縄県名護市辺野古905
TEL: 0980-55-4003(代表)
<https://www.okinawa-ct.ac.jp/>